

研究論文などの世界

今、全世界でどれだけの数の大学、研究機関、企業内研究所などがあるだろうか？その中で日々研究や製品開発に当たっている人たちは何人いるだろうか？ 個人で研究をしている方もいるだろうし、組織的に取り組んでいる人たちもいる。

科学は長い歴史をもち、先人達の研究成果の上に積み重ねることにより発展してきた。みんなそれ以前の研究成果を基に、最先端・最新の発見・発明を目指して日夜取り組んでいるわけである。

では、世界の何処で、誰が、どのようなことに挑戦しているのかを知る手段は何処にあるのだろうか？ネイチャーやサイエンスなど代表的な雑誌に目を通すだけでは不十分で、日々更新される各種論文・特許のデータベースに目を凝らしている。自分の取り組んでいる研究も、1日でも早く他の人が発表してしまえば、権利はその人の物になってしまう。例えば、特許出願に関しては、特許出願を行う前に発明のアイデアや内容を不用意に公表してしまうと、それ以降は他者のみならず自分自身も権利を得られなくなる。また、論文に関しては、論文投稿の前にライバルの研究者が同じ内容をいち早く投稿してしまうと、研究の成果はライバル研究者のものになり、その後の論文は先行報告者の知見を確認する位置づけにしかならなくなる。如何に発表した日などが重要かは当該の方々にとっては非常に重要な事柄なのである。

逆に自分の発表した論文や研究成果を他人に侵害されないように、自分の権利を守ることに注意が払われている。これらに関係した事柄は、各種論文・特許・商品開発等々広範囲に及んでいる。

ノーベル賞を初めとする数々の賞や、私たちの生活を便利にし企業に利益をもたらす製品開発の基礎となる特許などは、そのような場を経て生まれてくる。その成果の総体として今の日本がある。詳しい内容については下記URL等を参照して欲しい。

[参考]参照して欲しいURL

<http://www.inpit.go.jp>

http://www.jpo.go.jp/index/daigaku_shien.html